令和２年度　作物栽培管理情報第７号

令和２年１１月発行
大分県中部振興局　集落営農・農地活用班

１．令和２年産水稲　本年の総括と来年への備え

１）令和２年産水稲の作柄概況

・令和２年産水稲の作況は、１０月１５日現在で大分県全体が「７７」、湾岸（大分市及び由布市が該当）が「６７」、南部（臼杵市が該当）が「８４」の「不良」でした。これは、平成５年と並んで、平成以降最低となりました。
・主な原因は、６月及び９月の低温及び日照不足、８月期の高温、７月上旬以降のトビイロウンカ多発による収量・品質の低下と考えられます。

２）翌年産に向けた病害虫・雑草防除等　～多発の原因は元から絶ちましょう！～

（１）トビイロウンカ　※多発前提で備えましょう！

①防除薬剤の見直し及び予約注文の徹底（品切れに備え、購入数は多めに）
②手持ち防除機器の点検、整備（使用したまま放置は故障の元）
③栽培管理作業の確認（箱苗防除剤の改善、適切な本田防除の徹底）
・本田防除の順序は「粒剤→水和剤等」です。

参考：トビイロウンカ防除に高い効果を有する薬剤

１）箱苗防除剤　※田植から最高分げつ期前後までを支える薬剤

薬剤名	使用量／苗箱	使用上の注意点	
		使用時期	使用可能回数
スクラム箱粒剤 （紋枯病の発生する圃場向け）	50g	播種時（覆土前） ～移植当日	１回
防人箱粒剤			

２）粒剤　※トビイロウンカの発生前に、水稲に抵抗力を与える薬剤

薬剤名	使用量／１０ａ	使用上の注意点	
		収穫前制限	使用可能回数
トレボン粒剤	2～3kg	収穫21日前まで	３回以内
スタークル・アルバリン粒剤	3kg	収穫7日前まで	
スタークル・スタークルメイト豆つぶ	250～500g		

３）液剤・粉剤等　※本田における発生程度に応じ散布する薬剤

薬剤名	使用量／１０ａ	使用上の注意点	
		収穫前制限	使用可能回数
トレボン水和剤	2000倍（60～150L）	収穫21日前まで	３回以内
トレボンスターフロアブル	1000倍（60～150L）	収穫14日前まで	
スタークル液剤１０	1000倍（60～150L）	収穫7日前まで	
スタークル・アルバリン顆粒水溶剤	3000倍（60～150L）		
トレボン・トレボンスター粉剤ＤＬ	3～4kg		

・参考に掲げた薬剤は近年登録されたものが中心です。農薬ラベルの注意事項に従い、発生に応じ適切に散布しましょう。
・薬剤の確保と併せ、手持ち防除機器の点検、整備を忘れず行いましょう。

（２）スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）※越冬させないことが被害軽減の第一歩！

①田面を耕起し、作土中の貝を粉砕する。
・栽培終了後は気温が低下し、乾燥しているため増えることができません。
この時期に駆除を徹底し、越冬する個体＝翌年の発生源を減らしましょう。

耕起するときの速度：ロータリーの回転速度は高速 ＞ トラクターの前進速度は低速

②侵入路である水路に溜まった泥をさらい、貝を外気にさらし凍死させる。
・翌年入水時に侵入する個体も併せて減らすことが重要です。

裏面へ

（３）雑草　※地面の下まで丸ごと防除！

①非選択性除草剤（ラウンドアップ等）を散布し、根まで枯らす。
②田面をやや深め（２０ｃｍ前後）に耕起し、雑草の地下茎等を外気にさらす。
・防除しにくい雑草の多くは、地上部が枯れた後も地面の下で増え続けます。
地面の下まで枯らすことにより、翌年の大発生を防ぎましょう。

ポイント

・本年の課題を踏まえ、かつ適切な対策を講じることにより来年の病害虫、雑草の多発を確実に抑えましょう。

２）地力保全・増進対策　～栽培終了後の圃場に栄養を！～

（１）土壌改良材施用

参考１．土壌改良材の例

資材名	種類	成分	施用量/10a
ケイカル	土壌改良材	ケイ酸、苦土	150kg
ミネラルG		ケイ酸、苦土、鉄分	200kg
とれ太郎		ケイ酸、苦土、リン酸	60kg
土改王		ケイ酸、苦土、リン酸、カリ	45～90kg

①圃場に残った稲わら等は、焼却せず全量鋤込む（**焼却と病害虫防除は無関係！**）。
②堆肥を施用する場合は、栽培終了後に鋤込み作土と十分なじませることが重要
注意☞豚糞や鶏糞堆肥を施用する場合は、窒素成分が過剰となりがちです。
これらを施用する圃場では、化成肥料の施用量を調整しましょう。

（２）有機物施用

参考２．堆肥（有機物資材）の例

資材名	種類	成分	施用量/10a
みのりS	堆肥	牛糞等	500kg
スーパー堆肥			

①収量・品質の低い圃場は優先的に施用（前もって土壌分析を行うと効果増大）
②施用は耕起と同時に行うと効率的に作業可能

ポイント

・土壌分析を行うとより効果的な地力保全・増進が図れます。収量の伸びない圃場は、栽培終了後に土壌を分析し、適正な施用量を検討しましょう。

２．翌年産資材購入の留意点　※使い残し確認で重複買い防止！

参考．資材購入の内訳

ポイント

・本年産の使い残しを翌年産で確実に使用することで生産費の節約となり、劣化による廃棄も防げます。
注意☞使用期限の切れた農薬、廃プラスチック等は適切に廃棄しましょう。

素早く的確な対策に！農業情報メール登録募集

１）配信受付アドレス　a11604@pref.oita.lg.jp
右のQRコードからも登録できます→
２）お知らせ頂く内容
（１）登録を希望される方のお名前または事業所名
（２）郵便番号
（３）住所（〇〇市等）または勤務先
（４）職業（生産者・認定農業者・法人・中山間・市・JA・NOSAI等）
※お知らせ頂きました個人情報は、本事業以外には使用しません。

お問い合わせ先：大分県中部振興局　集落営農・農地活用班　電話０９７－５０６－５７９１
ホームページ　：http://www.pref.oita.jp/soshiki/11604/saibaikanrizyouhou.html